

しもばんあらいせき
1. 下番荒谷遺跡

所在地：あわら市下番

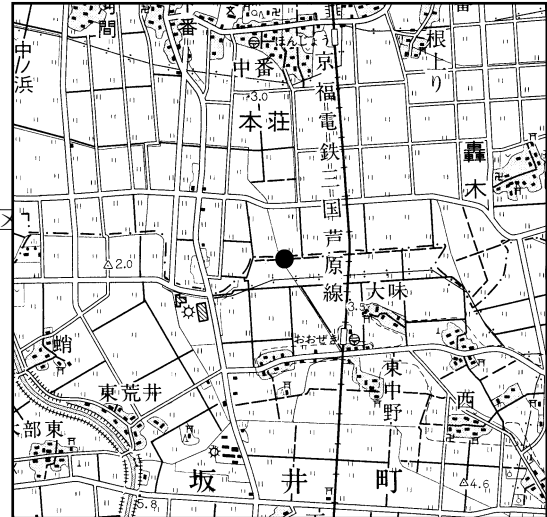
調査原因：県営かんがい排水事業 西江・中江2期地区

調査期間：平成23年10月3日～11月30日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：290 m²

時代：弥生・古墳時代



位置図 (S=1/50,000)

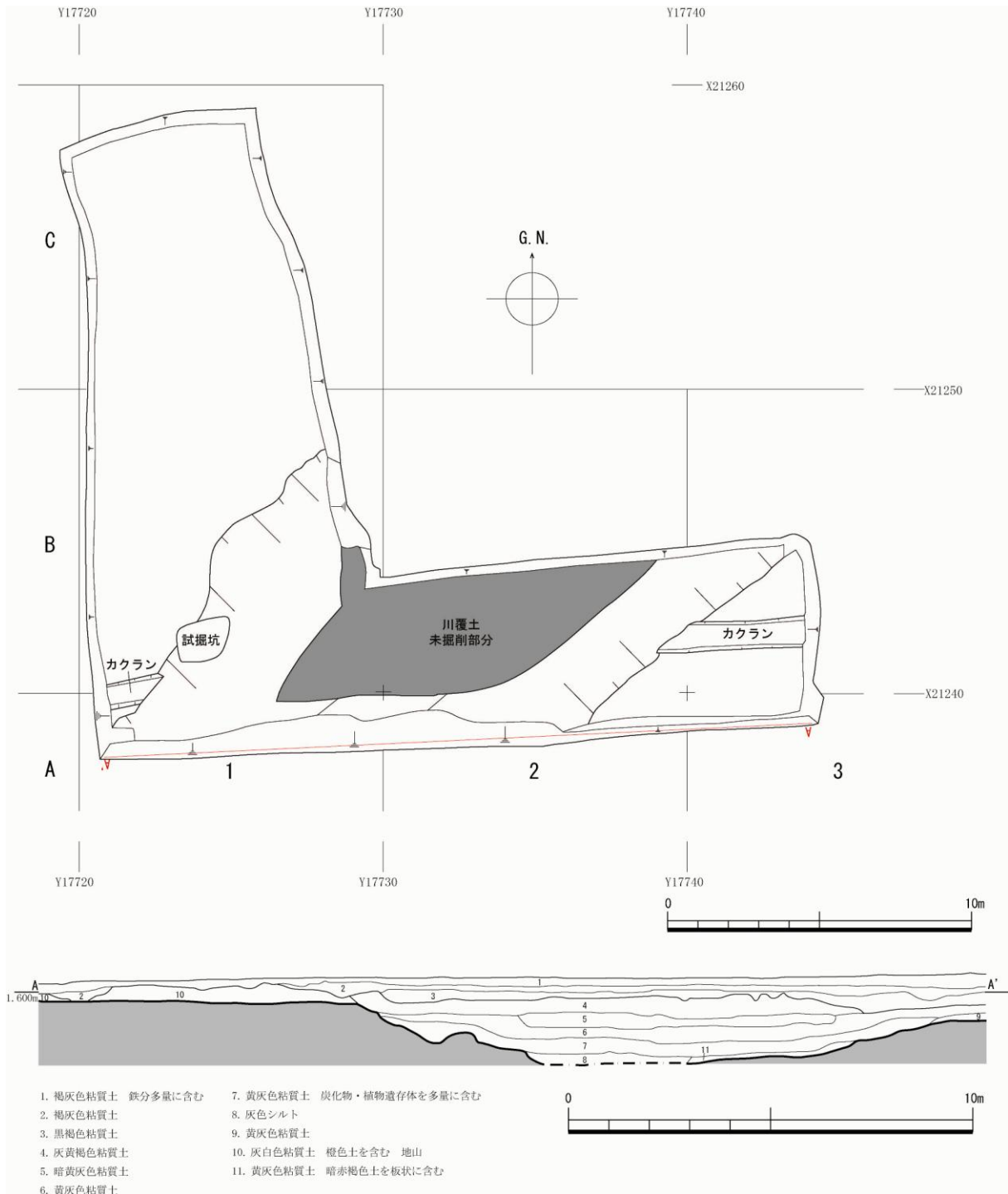
調査の概要 下番荒谷遺跡はあわら市下番集落の南方、坂井平野北部を流れる竹田川下流左岸一帯の広大な水田地帯に展開しています。今回の調査区は集落の南端部に位置し、坂井市大味地区との地境に接する場所です。

遺構 調査区の南半部で、川跡を1条検出しました。幅は約13m、深さは最大で約1.5mを測り、方向はほぼ北東-南西を向き、南西に向かって流れていたものと見られます。川の大半がほぼ同じ土で埋まっていますが、川底では厚い粗砂の層が露出し、多量の地下水が湧き出ていました。いわゆる水辺（川や沼・湿地）で見られるような、植物遺体などの堆積物はほとんどなかった反面、川の南東側の壁面には、植物遺体を含む土が厚さ10～30cmほどの間層として、一様に入っていましたが、遺物は全く含まれていませんでした。このことから、川の南東側一帯はかつて低湿地であったと考えられます。

遺物 出土した遺物は、弥生土器や土師器（弥生時代後期から古墳時代前期）が主です。量は少なく、総じて散漫な出方でしたが、特に川の両岸の浅い部分に偏って出土し、中でも北西岸部に高坏や器台の類が目立ちました。なお、非常にわずかですが、川底から何らかの部材と見られる木片も見つかりました。

まとめ 今回の調査区は、弥生・古墳時代当時は低湿地で、その中を自然河川が流れていたものと推測されます。さらに、遺物の時期や出土地の傾向から見て、弥生時代中期から古墳時代前期にかけて、川の北西に集落が存在していた可能性が高いと思われます。

(中森敏晴)



全体図および断面図